

1. 緒言

我々の身のまわりには、食物、草花、化粧品等の匂いから、排気ガス、工場等の臭いまで多くのにおい物質がある。よい匂いは我々の気分を壮快にしたり、血圧を下げ、緊張をときほぐすなどの鎮静効果をも持つ。本研究ではこの様なにおい物質の被服材料（羊毛）への吸着性を逆相ガスクロマトグラフ法により検討した。匂い物質としては、天然の植物界に広く存在し、香料にとって不可欠の重要化合物であるテルペン化合物を用いた。

2. 実験方法

市販羊毛試料は、前報¹⁾と同じ物を使用し、同様に精製した。ブローブとして用いたβ-ピネン、リモネン、フェランドレンは、提供を受けた単離香料をそのまま使用した。逆相ガスクロマトグラフィー用カラムの作成も前報¹⁾と同様、羊毛織り糸をかせにして、内径3mm、長さ約50cmのステンレスカラムに引き揃えて充填した。充填量は約1.725gであった。今回使用した機器は、島津ガスクロマトグラフGC-7A（検出器FID）である。

3. 結果と考察

ブローブ注入量に対応するクロマトグラムピーク面積Aと、(1)式から求めた保持容量 V_R をプロットしたところ、65℃の測定温度で、どの系も保持容量 V_R はブローブ注入量の増加にともない、直線的に増加した。これは前報¹⁾のn-ドデカン系の場合と同様の結果であり、ブローブがモノテルペン炭化水素であることから妥当であると推測出来る。